(6)むらのゾーンの基本目標

わかやぐむら、それは郷土の安心感

基本目標

- 風土をいかした個性的な景観づくりをすすめる
- 住民参加の活力あるむらづくりをすすめる
- むらの中の緑、水、歴史の保全と創造を図る
- 地域にあった生活基盤の整備を図る

むらは、近年の一次産業の不安定化などにより、過疎化、高齢化が進行し、若者の定住化が求められています。また、その定住の条件を整えるための、むらの活性化や生活基盤の充実が求められています。

しかしながら、豊かな自然、人情の厚いむらは、そこに生活している人はもとより、むらを離れた人々にも、美しいふるさとの原風景として安心感をもたらしています。

したがって、若者がいるいきいきとしたむら、自然とふれあえる生産の場としてのむらといった、むらならではの良さを、次の世代におくるため、むらは共有財産だという意識を持ちながら、人々が安心できるむらをつくることが必要です。



切妻づくりの家並み（宮崎村）

■ 福井のむらの特徴

土のかおる農村

本県の農村は、地域のまちを中心として、その周辺に分散して位置しています。近年、農家の兼業化や就業者の減少、高齢化が進んでいます。しかしながら、コシヒカリを中心とした良質で低コストの米づくりや観光農業、特産品づくりなどの積極的な農業が展開されています。

また、混住化の進展により、農業にたずさわらない人の数が増加しつつあり、農村の人々の生活に対する意識も多様化してきています。

木のかおる山村

近年、人工林面積は横ばい傾向にあり、林業経営の低下がうかがえますが、一方では、豊かな森林づくりが進められているとともに、間伐材、山菜などの森林資源をいかした特産品づくりが進められています。

本県の山村は、県境や市町村境を構成する山地の谷あいに位置していますが、その大半は農業にも従事しているため、生活環境としては農村と大きな相違はありません。

潮のかおる漁村

本県は、長い海岸線と好漁場に恵まれ、多くの漁村があります。しかしながら、水産資源の減少や漁場環境の悪化等が憂慮され、とる漁業からつくり育てる漁業への転換が進められています。

また、本県の沿岸は恵まれた自然景観を呈していることから、これらの漁村には、多くの民宿や旅館などがあり、海洋性レクリエーションの基地となっています。

■ 福井のむらの課題

風土と調和したむらをつくる

◆ むらは、まちに比べて豊かな生活空間を有しており、自然環境にも恵まれていますが、利便性の観点からみると、必ずしも快適とはいえません。このため、生産環境と生活環境が調和した土地利用を図りながら、生産基盤の整備や集落道路、農・漁村下水道などの生活基盤の整備を計画的に行っていく必要があります。

◆ また、これらの施設をつくっていくにあたっては、むらがもっている自然や歴史をいかしながら、文化的、景観的な面にも配慮していく必要があります。

いきいきとしたむらをつくる

◆ むらの景観、自然、暮らし方など、むらならではの良さを再認識し、住民自らが創意工夫しながら、むらづくりを進めていく必要があります。

◆ ふれあい学習や体験学習など、むらの産物を利用したふれあいの機会、外部との交流の機会をつくり、むらの良さを積極的にアピールしていく必要があります。

◆ 自然や景観をいかした公園づくりや集落センターなど、人々が交流できる場をつくる必要があります。

◆ むらは従来から、小集団としての連帯感が強く、身の周りの環境についての共有意識が残っています。この意識を大切にし、むらの活性化を図っていく必要があります。